
9/20 00:00 非通知 1件

エイノジ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

9 / 2 0 0 0 : 0 0 非通知 1 件

【Nコード】

N 7 9 1 3 Y

【作者名】

エイノジ

【あらすじ】

免許712 x 大鳥wkb

誕生日ネタ

いくら仕事とはいえ、日付が変わるなんてありえないと思う
だけど、そう文句も言ってるんじゃないし、結局は重たい体をまた重た
くしてしまう

それでも、3時間ぶりに開いた携帯の画面を見て嬉しくて泣きそう
になった

00:00	1件
00:02	1件
00:05	1件
00:12	1件
00:25	1件
00:40	1件
01:00	1件
01:30	1件

計8件の電話

内、きっかり5の倍数になっているのは丁寧な藤原さん
(違うのはサトミツと原口さん)

今日じゃなかったなら、直ぐに掛け直すけど、ごめんなさい。ちょ
っともうそんな気力ないです

事務所が用意してくれたタクシーに乗って帰路につく

）
アラームが鳴り響いたので携帯に手を伸ばし、画面を見ずともピッと操作

「あ…」

05:30 1件

流石にこれは掛け返さなきゃいけないなと思ったところでまた携帯が鳴る

《着信中 藤原一裕》

「あ、わわ…っ」

『もしもし』

そつと受話部分に耳を当てると、安定のある低音イケメンボイス

「もしもし…」

『はあ、良かったー。やっと繋がった』

「あのっ、すいません」

『ああ、ええよ。こっちこそ眠りの邪魔したんちゃう?』

「違、くて…」

『何?』

藤原さんに見えるはずがないのに、正座をして背筋を伸ばす

「気づいてたのに、掛け直さなかった…んです…すいません」
「……あ、…誰かと居った?」

機械を通して聞こえる藤原さんの声には、怒りの感情はなく素直な疑問と、どちらかと言うと悲しいという感情

「そんなことないです! 仕事が長引いて…っ」
言ってから気付いた。アチャーって思った

いかにも言い訳がましい

『若林』

「いや、これは本当のことですって、その後はすぐに帰りましたし」

『若林』

「だから本当に」

『今日になつてから誰かと喋った？』

「へ」

怒られると思つた

怒鳴り付けられると思つてた

なのに藤原さんの優しい声が、俺に優しく問い掛けてくるので、

「春日と、仕事で一緒だったウチの事務所の人と…」

誠心誠意、本当のことを嘘偽りなく話した

『…そつか』

「どうしたんですか？」

『33歳初若林が俺との会話じゃないことが悔しくて悲しくて…』

「すいません…」

誕生日、そうか…まさかとは思つたけど知っててくれたんだ

『俺、ほんまはそういうの面倒くさいタイプやねんで？』

「本当にすいません」

『何で覚えてたと思う？』

何で？確かに、言つた覚えはない

だって俺は藤原さんの誕生日知らないし…

「何で、ですか？」

『俺と同じ誕生日やから』

「え、え…」

てことは藤原さんも誕生日9月20日？

「ええー！！言ってくださいよ！あ、俺何にも用意してない…

じゃなくて、俺本当に酷いこと…」

自分の誕生日だからと思ってたけど、俺の誕生日だから藤原さんは祝ってくれようとしたんだろうとでもそうじゃなくて、本当は俺に祝って貰いたかったんじゃないかな…

『ええって、な?』

「いや、良くないです…」

『じゃあどうする?』

どうするったって、お祝いするに決まってるじゃないか

「今日、仕事終わったら家行きます…」

俺にしては頑張ったよ!何これ恥ずかしい!!顔熱い!!!!

『えー』

「だめ、ですか?」

『誕生日は今日やねんで?また昨日みたいに天辺越えたら終わりやん』

「…うぐう」

今日も日付を越える可能性は十分に有り得る

『今』

今?

『今から会おっか』

「…はい」

あわわ、俺返事しちゃったよ

『仕事は?いける?』

「ちよつとだけ、なら…」

『ここで若林の家のインターホン鳴ったらロマンチックじゃない?』

「え…」

もしかして、と思って立ち上がり

玄関の覗き穴から藤原さんの姿を探す

『ふふ、探してる?』

「…?何なに?何ですか?」

『30分待ってて、バイクで飛ばすわ』

「!!!」

きゅーーーーん

バイクに跨がって颯爽と俺に会いに来る藤原さんを想像して胸が詰まった

『じゃあ一旦切るわ、じゃ…また』

また、また。また…

まだまだ今日は終わらない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7913y/>

9/20 00:00 非通知 1件

2011年11月23日16時50分発行